

観経疏・定善義 白井教授

正信偈 江上助教授

大無量寿經

藤嶽講師

無量寿經優婆塞舍願生偈

加来講師

英訳 歎異抄

佐藤講師

演習

歎異抄(四回生)

細川教授

歎異抄(三・四回生)

幡谷教授

歎異抄(三・四回生)

白井教授

歎異抄(三・四回生)

小野教授

歎異抄(三・四回生)

神戸教授

歎異抄(三・四回生)

江上助教授

歎異抄(三・四回生)

安富助教授

歎異抄(三回生)

延塚助教授

編 集 後 記

『親鸞教学』第五十六号、今回もまた発刊の遅れましたことをお詫び申し上げます。今号には、昨年度の学会大会での佐藤正英先生の講演を掲載いたしました。掲載を快諾いただき厚く御礼を申し上げます。また、梶山雄一先生には幡谷明著『曇鸞教学の研究』に対する書評を、本多弘之先生には寺川俊昭著『教行信証の思想』の紹介の原稿をいただきました。ここに両先生に厚く御礼申し上げます。巻頭の廣瀬先生の論文は五十四号の続編です。先生は昨年度をもって定年退職されましたが、大谷大学の真宗学徒に多くの問題提起をしてくださいました。先生の現在進行形の学びに触発されながら、あらためて今後の真宗学の展望を切り開くことが私たちに課せられていることが思われます。

宗教は時代社会を超えた普遍的な価値・意味について述べ伝えてきた。自己の根本的成立、人間存在の根拠、生の出発点、人生全体の意味等、実存的な不安を契機として、自己の在り方と人生の全体

が根本から問われるところに、宗教の説示する問題がある。もちろん私たちはそのことについて始めから安易な答えを持つことはできない。また安易な答えは答えにはならない。そのような問題はどこまでも自己の全責任において問い尽くされるべきである。そして私たちは、このような問いにおいて逆に自己が呼び出されていくことを感じる。たとえ教えの言葉を借りるにせよ、自己自身による生きの意味、生きる根拠の設定は、その全体が自身の想念の内でのことである。その想念に先立ってある事実への目覚めを促すのが教法である。したがって真に宗教といわれるべき事柄は常に何ごとかに執着することで自己であろうとする人間存在の変革を結論とするものであろう。

近代から現代にかけて、人間は自己を超えた視点を見失った。それは人間が不安を解消するために生み出した幻想であるとした。そして自然も人間も人間によって自由に支配できるものと考えられるようになった。このことは何かに支配される形で主体性を放棄していくことからの転換という一つの重要な意味をもつことではあるが、しかしそのことによつ

て現代の私たちが直面しているのは、自身の生み出した技術文明によって自らを破滅の危機に追い込んでいくという事態である。この問題は天災ではなくて人間の生み出した問題である。自己の生きる世界を所有の対象、生産の手段として扱ってきた結果である。すべてを対象化し手段化し、モノとしていくことで、人間自身は全体的同一性を失って私的関心に閉じこもっている。

現代は地球的規模で人間の在り方の問題性が顕在化している。それと同時に宗教に対しても未来の展望を開くための発言が要請されている。仏教は伝統的に我執に基づく自縄自縛の事態を超えることを説いてきた。しかしそれは人間の厚かましい夢想に答えているのではなく、自己の在り方の転換を迫る自得自証の事柄である。特に現代情況にあつて、宗教に対しての曖昧な期待が目立ってきているにつけ、人間を根本から問う視点の重要性が思われる。

(文責・安藤)

追記

▽『親鸞教学』のバックナンバーがありますので、お知らせ致します。価格等は左記の通りです。号によっては残部が僅かですが、ご希望の方は編集部までお申出ください。

記

- 第25～27・29号 五五〇円
- 第32～34・37号 六五〇円
- 第38・39号 七五〇円
- 第4041合併号 二、〇〇〇円
- 第42～53号 九〇〇円
- 第54・55号 九二七円

▽本誌に対する御意見・御感想をお寄せください。誌面充実のための参考にさせていただきます。

1990年9月1日 印刷	親鸞教学 第56号	定価927円
1990年9月5日 発行		(本体900円)
編集	京都市北区小山上総町22	
発行	大谷大学真宗学会	
	親鸞教学編集部	
	発行人 小野蓮明	
	大谷大学真宗学会 振替 京都 6-8225番	
発売	京都市中京区寺町通三条上ル	
	文栄堂書店	
	振替 京都 8-2948番	
印刷	京都市下京区七条御所ノ内中町50	
	中村印刷株式会社	
	電話 (313) — 0468番	